

FULL HEIGHT DOOR®

STEALTH MODE ステルス枠

フルハイトドア

施工手順書

クロゼット【スライド片開き戸タイプ】

クロゼット
スライド片開き戸タイプ



施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



注意

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けした場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので、扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□ スライド収納戸

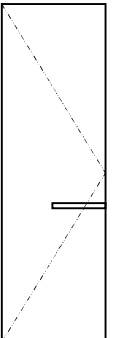

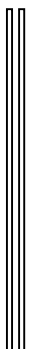
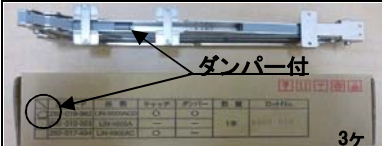
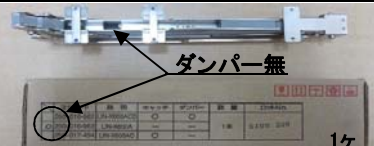
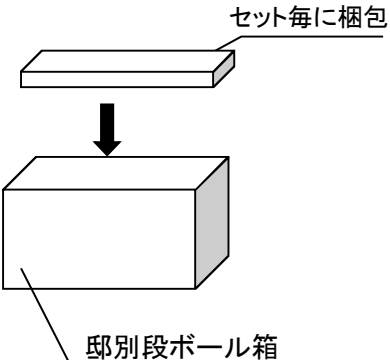



forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収納片開き戸</td> <td>1枚</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				部材	数量	備考	収納片開き戸	1枚		梱				
部材	数量	備考												
収納片開き戸	1枚													
			品											
下地枠			同	施工手順書										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>縦枠</td> <td>2本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				部材	数量	備考	縦枠	2本						
部材	数量	備考												
縦枠	2本													
			梱											
				品										
建具金物箱			同		ヒンジ本体セット(ダンパー付)		ヒンジ本体セット(ダンパー無)							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金物</td> <td>一式</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				部材	数量	備考	金物	一式						
部材	数量	備考												
金物	一式													
			梱	連結ロッド	連結ロッドカバー	取手								
				品										

□ スライド収納戸

forステルス枠

施工手順書2014/11

改訂2017/1

下地金物箱			座金	取付ビス	ビスキャップ				
部材	数量	備考	 <p>4ヶ</p>	 <p>ビス8本</p>	 <p>4ヶ</p>				
金物箱	1式								
 <p>セット毎に ビニール梱包</p> <p>邸別段ボール箱</p>						同			
						梱			
			品						

□スライド収納戸

forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

1 施工前の確認事項

- ① 縦枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と、高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。（縦枠は床仕上げ面からの立ち上がりとなっておりますので注意してください）



※1				
	隙間がある	隙間がある	隙間なし	
	×	×	○	
※2				
	Row寸法 (下地枠外W)			
図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認				

注意

- ※1: 縦枠は躯体（構造材）と面接合するように取り付けますので、縦枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
 ※2: 施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。
 ※開口部(柱・まぐさ等)の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。

2 縦枠の取り付け

- ① 縦枠を下地金物箱に同梱されているビスにて加工穴より柱に固定します。取り付け位置は、壁仕上面（ボード面）から収納内部に29mm入った所に取り付けます。

縦枠の固定 (座金位置の丸穴部分より固定)	縦枠取付け位置 室内側	ビスの止め方 × 頭が飛出している	ビスの止め方 ○ 頭が飛出していない
		ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。	

- ② その後、両面から12mm合板(現場手配品)又は、12.5mmの石膏ボードを挟み込んでください。また、縦枠は正寸カットにて出荷していますので、現場にてカットしないでください。

12mm合板（12.5mm石膏ボード）の取付	縦枠を両面から挟み込む (12mmまたは12.5mm)	収納内部 室内側	棚設置時は縦枠から15mm以上はなす

注意

- ※縦枠を両側から挟み込む際、12mm、または12.5mm以外の物を取り付けると扉が納まらなくなる場合がありますので、注意してください。
 ※収納内部に棚を設置する場合は、縦枠よりも15mm以上はなした位置から取り付けてください。

□スライド収納戸

forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

3 巾木・クロス施工(塗り壁の場合は別紙塗り壁仕様参照)

① 巾木を接着剤にて取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)



接着剤全面塗布

巾木の取り付け方

② パテ等の下地処理をした後で、クロスを貼ってください。(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします)



メッシュテープ貼り

パテ処理



※巾木は厚さ7mm以外の物是对应しておりませんので、ご注意ください。

注意

4 座金の取り付け

① 枠に座金を取り付けます。あらかじめ下穴があいておりますので、付属のビスにて取り付け、最後は手動ドライバーでもって完全に固定してください。
座金は下地金物箱と同梱されております。



座金の下穴

座金の取り付け

手動ドライバーで完全に固定

取り付け完了

※ビス固定の際は、ビスを垂直に挿入して固定してください。

※電動ドライバー等で強く締めすぎるとビス頭が潰れてしまう恐れがありますので、トルク調整に注意し、最後は手締めにて完全に固定してください。

※吊元側のみ座金の下穴加工がされています。

注意

□スライド収納戸

forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

5 スライド丁番の取り付け

<p>① スライド丁番本体を取り付けます。 その際、スライド丁番にはダンパー付とダンパー無しがありますので、下から2番目のみダンパー無しを取り付けて下さい。 スライド丁番は建具金物箱に同梱されています。</p>	 <p>スライド丁番本体の ビス固定</p>	 <p>ダンパー付</p>	 <p>ダンパー無し</p>	
<p>② スライド丁番が取り付けいたら吊元側に近いビスを緩め（1個に付4箇所）連結ロッドを差し込みビス固定します。（その際、上部と下部の出が等しくなる位置でビス固定を行ってください）</p>	 <p>吊元側のビスを緩める</p>	 <p>連結ロッドを差し込む</p>	 <p>溝内に連結ロッドを入れる</p>	 <p>○ 出は上下等しく ビス固定 （上下の出は等しく）</p>
<p>注意</p> <p>※電動ドライバーで強く締めすぎるとビス頭が潰れてしまう恐れがありますので、トルク調整に注意し、最後は手締めにて完全固定してください。 ※スライド丁番のダンパー無しは下から2番目に取り付けてください。 ※連結ロッドを差し込む際、扉を横にねかし必ず溝内に差し込んでください。</p>				

6 建具の吊り込み（2人以上で吊り込み）

<p>① 枠側の座金の上下調整のビスを緩め、座金のくぼみ部分にスライド丁番裏側の掛かり部分を引っ掛け、パチンという音を確認してください。（その際、床と扉の間に9mm程度のあて材を入れて行ってください）</p>	 <p>上下調整のビスを緩める</p>	 <p>座金のくぼみ部分に引っ掛ける“パチン”の音を確認</p>	 <p>床と扉の間にあて材を入れる</p>	 <p>OK!</p>
<p>注意</p> <p>※建具の上下の取り違いにご注意ください。 ※建具の吊り込みは必ず2人以上で行ってください。 ※スライド丁番と座金は、パチンと音が鳴るまでしっかりと押し当てて装着してください。</p>				

□スライド収納戸

forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

7 スライド丁番での調整

<p>① 建具吊り込み後に調整が必要な場合は、図の手順に従って調整してください。調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。調整は建具を吊ったままの状態で行えます。 (床と扉の間にかいものを使用すると調整が楽に行えます)</p>				<p>【調整範囲】 上下方向±1.5mm 左右方向-1、+1.5mm 前後方向+1.5mm</p>
	<p>上下方向の調整 4ヶ所全ての丁番のビスを緩め上下にスライドさせる</p>	<p>左右方向の調整 時計回し → 吊元側に寄る 反時計回し → 戸先側に寄る</p>	<p>前後方向の調整 ビスを緩めて丁番を前後にスライドさせる</p>	<p>調整範囲</p>
<p>② 扉のあおりを調整する場合は、扉側アーム部分の上下2本のビスを緩めて、あおりを調整してください。 各々4ヶ所のアームを調整してください。</p>				
	<p>あおりの調整 扉側の上下のビスを緩めて調整</p>		<p>あおりの調整</p>	
<p>注意</p> <p>※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。 ※上下調整が必要な方の建具の縦枠に取り付けているすべての座金で、調整が必要となります。 ※両側の座金取り付け箇所にて調整操作が反転しますので、ご注意ください。 ※あおり調整する場合、一番上の丁番の上部と一番下の下部のビスは、短かめの手動ドライバーにて調整してください。 ※開閉はあまり勢いよくやらないよう注意してください。</p>				

8 取手・ビスキャップの取り付け

<p>① 扉の養生シートをはがし、金物箱に同梱されている取手を取り付けます。 最後に同梱されているビスキャップを戸先側のみに取り付けます。 取手・ビスキャップは建具金物箱に同梱されています。</p>				
	<p>養生シートをはがす</p>	<p>取手の取り付け</p>	<p>戸先側のみ ビスキャップの取り付け</p>	
<p>② 開いた時の壁仕上面から扉の出寸法は329mmとなり（取手含む）、扉裏側の金物の出寸法は枠の端より9.5mmとなります。</p>				
	<p>開いた時 壁仕上面からの出寸法</p>	<p>閉めた時 扉裏側の金物の出寸法</p>		
<p>注意</p> <p>※取手の取り付けは手動ドライバーにて行ってください。 ※収納内部に棚板等を取り付ける際、枠の端から10mm以上はなした所に取り付けてください。</p>				